世界旅行で算数探検！

企画・構成 科学的教育グループ SEG
www.seg.co.jp

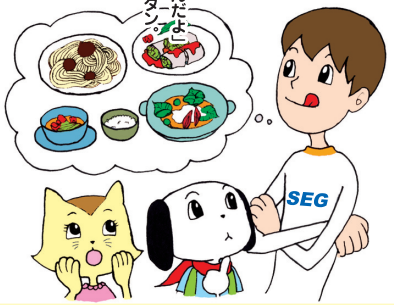
リョッピー世界をめぐる！

第6話 守り鬼のおはなし

■編集／青木 亮二 ■イラスト／野中 理恵

タイの北部に位置するチェンライ県にやってきたリョッピーたち。
ここは、旅好きのおにいさんが、とりわけ好きなところ。
今回は、おにいさんの案内で、チェンライの街を観光です。

「といっても、とくに見どころはないんだよ」
ええーっとおどろくリョッピーとブータン。
「じゃあ、なんでお気に入りなの？」
とたずねると
「とくに見どころがないから、かな」
と、おにいさん。
ふたりには、おにいさんのその言葉の意味がわかりません。
「たまには何もないのがいいってこともあるのさ」
ごちそうがいっぱいなのが理由だということは
ふたりにはないしょです。
「いつも行く食堂があるんだ。
おなかもすいたし、行ってみようか」
「わーい」
3人はお昼ごはんにすることにしました。



「チャーハンをたのむには、
フライライ*っていえばいいんだよ」
「じゃあ、フライライっ」

「チャーハンが出来上がるまでの間、
ここチェンライに伝わる
守り鬼の話をしてあげよう」
と、おにいさん。
「こわい話？」
「チェンライは昔から、
たくさんの鬼たちに守られていると
いわれているんだ。伝説によると、
40対の腕と67の瞳によって、平和が
たもたれているってことになっているんだ」
「へえー」
「おもしろいのはここから。
鬼は3種族いて、
赤鬼には1対の腕と5つの瞳が、
青鬼には2対の腕と3つの瞳が、
黄鬼には3対の腕と1つの瞳が
あるんだ。このことから、チェンライに
守り鬼があわせて何匹
いるのかわかっちゃうんだけど、
その数を口にすると、鬼たちに
食べられちゃうんだって」
「ひえー」
リョッピーはこわい話が
大の苦手なのです。
「でも、どうして何匹いるのか、
わかるのか不思議だわ」
こわいもの知らずのブータンは、
そんなリョッピーを尻目に、
さっそく考えようとします。

ここで問題！

問題の難易度 ★★★☆☆

チェンライの守り鬼は何匹いるのかな？

わかっていること
1. 赤鬼には腕が1対、瞳が5個ある
2. 青鬼には腕が2対、瞳が3個ある
3. 黄鬼には腕が3対、瞳が1個ある
4. 腕はあわせて40対、瞳はあわせて67個ある

それぞれの鬼の腕の対の数も、瞳の数も
みんなちがうから、どうやって数えていいのか
ぜんぜんわからないわ。

鬼がみんな2対の腕を持ってる、とかだったら、
40÷2＝20で全部で20匹って
わかるんだけど…

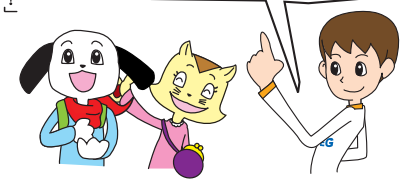
でも、あまり「1対の腕」なんていわないよね。
ふつうは腕が何本、っていい方しないかな？

ちょっと待って！
赤鬼は腕を2本、瞳を5つ、
青鬼は腕を4本、瞳を3つ、
黄鬼は腕を6本、瞳を1つ……
ああーっ、どの鬼も、腕の数と瞳の数の合計は7つだ！

鬼の腕の数と瞳の数を合わせると、
40×2＋67＝147だから、鬼は全部で147÷7で…

21匹だわ！

解き方のポイントは
「どの鬼にとっても同じとなる
ものは何かを考えること」だね！



「だから、口にしちゃうとダメなんだって！」
「ああっ！」
その話を思い出したブータンは、
顔が真っ青です。
おにいさんはいいます。
「だいじょうぶ。フライライっていいながらチャーハンを食べると、鬼たちに食べられずにすむから」
「ホントにー？」
「うん。だって、ぜんぶぼくのつくり話だからさ」
「もーっ！」
今回はおにいさんにしてやられたブータンとリョッピーなのでした。

次回はトルコに行くよ！

おにいさん
大の旅行好き。
でも、実は算数名人。

ブータン
リョッピーの友だち。
意外としっかり者。

リョッピー
不思議大好き。
でも、ちょっと泣き虫。

おにいさんの早わかり タイの豆知識

東南アジアのインドシナ半島の中央部に位置するタイは、バラエティーにとんだ魅力にあふれているよ。タイ料理、優雅な古典舞踊、豪華な寺院、世界遺産スコータイとアユタヤなどが有名だね。また、国民の約95%は仏教を信仰し、男子は一生に一度は仏門に入り修行するのがならわしだよ。タイではどこへ行っても輝く寺院が目にとまり、早朝には黄衣をまとった托鉢の僧侶に出会えるんだ。

■人　口：約6000万人　■面　積：51.4万㎢
■言　語：タイ語

中学入試問題にアタック！

Q A、B、C、D、E、Fの6つの国がサッカーの試合をしました。1つの国から1チームが出場し、すべての国と1試合ずつ試合をしました。その結果、A国は1勝4敗、C国は4勝1敗、D国は2勝3敗、E国は1勝4敗、F国は5勝0敗でした（引き分けはありません）。B国は何勝何敗だったでしょうか。

（2003年　星美学園・一部改）

解答 6つの国の勝ち負けの数の合計は等しくなります。B国以外の5つの国の勝ち数は（1＋4＋2＋1＋5＝）13、負け数は（4＋1＋3＋4＋0＝）12ですから、B国の負け数は、勝ち数よりも1つ多いことになります。B国は合計5試合しているので、この条件を満たす勝ち負けの数は2勝3敗しかありません。

（答）2勝3敗